

神楽名

おお やぶ 大藪神楽

伝承地

おおかわち 大河内地区

椎葉村大河内大藪

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

大藪神楽保存会

代表 高松今朝光



戸 取

◆ 神楽の概要・由来・その他

大藪神楽が伝承されている大河内大藪地区は、椎葉村の南端部に位置し、西米良村と隣接する。大藪地区周辺の森は九州大学演習林の保護区内にあり、大藪川にかかる御神橋の真下には落差30mの「御神の滝」がある。

大藪神楽は、大藪地区の鎮守である今森神社にて神迎えを行い、公民館を神楽宿とし奉納される。平成20年頃までは大藪と大桑木の2集落が3年に一度、合同で夜神楽を行っていた。大藪に今森神社、大桑木には鹿倉神社が鎮座し、大河内神社に合祀された明治初期以降も、狩猟の神として信仰されている。現在は大河内の4地区の輪番で大祭（夜神楽奉納）が行われており、当番でない地区では、それぞれに小祭りが行われる。大藪地区の小祭りは、今森神社と鹿倉神社、薬師様と稲荷様がお祀りされている祠にて神事後、夕刻より公民館にて神楽数番が奉納される。

御神屋中央に吊るされた舞雲（天蓋）より結んだ引綱を操り、舞の間終始揺り動かす。この舞雲は、神を勧請する依り代となる。

◆ 芸能の機会・場所

- 大藪夜神楽... 12月第2土・日曜日（4年に一度、大藪集会センター・今森神社）
- 小祭り... 12月第3土曜日 「花の手」「大神神楽」「日月」「剣の手」（大藪集会センター）

◆ 演目一覧

いたお 板起こし	神事（修祓・献饌 等）			
ありなが 有長	みこうや 御神屋・ほめかた	いちかぐら 一神楽	たすき 襷の手	つるぎ 剣の手
じわり 地割（宝渡し）	にちがつ 日月	花の手	きじん 鬼神	いなりかぐら 稲荷神楽
しばひき 芝引	みくま	たちから 手力（上の重）	だいじんかぐら 大神神楽	ととり 戸取
ししまい 猪舞	もり 森	手力（下の重）	弓の手	たるめん 樽面
しばこうじん 芝荒神	おきえ	いせ 伊勢の神楽	火の神	ごつでん 牛頭天
かんすい 神崇	宮神楽（今森神社）	とし 年の神	猪舞	舞降ろし

※平成30年（2018）12月の神楽奉納の番付に基づく

◆ 演目の特徴

神楽序盤の神事「板起し」では、^{いたおこ}唱え言とともに、まな板の清め祓いとして榊の葉を切り散らした後、狛師から奉納された猪肉と鹿肉を切り串に刺し、それを全員で食す。村内でも豆腐を代用する地区が多い中、^{しゅりょうぎらい}狩猟儀礼と密接に結びついた神楽であるといえよう。

「弓の手」では、榊柴を手にした観客らが神庭に乱入し、押し合い舞う。弓の手の舞手が退くと、神主より「^{みこうや}神前の御神屋を荒らしたことは許されない。お詫びに樽一本を供えなさい」と説教されるが、観客が「この祭りを賑わせたので、逆に私たちに樽一本をください」と掛け合い、次の演目「^{たるめん}樽面」が担ぐ酒樽に繋がる。

終盤「^{かんすい}神祟」が舞われた後、まだ日が明けぬうちに神楽宿から^{いまもりじんじゃ}今森神社に向かい、神送りの「宮神楽」が奉納され、再度神楽宿に戻り「^{ししまい}猪舞」「舞降ろし」の奉納で、夜を徹した神楽は締めくくられる。

◆ その他の特徴

- 面... 大河内4地区で面は共有されている（大河内八幡神社保管）
鬼神、芝引、手力、猪舞、戸取、樽面、荒神、めしょう面 等
- 楽... 太鼓、^{てびょうし}笛、^{かね}手拍子（鉦）、^{がくいた}楽板
- 装束... 白の舞衣、金模様の陣羽織・袴、狩衣、烏帽子、舞笠、鉢巻、ケン（金紙） 等
- 採り物... 鈴、扇、榊、御幣、襷、面棒、六尺棒、弓、矢、刀、丸盆、樽 等
- 文書... 「言句全集 大河内神楽」 等

◆ 伝承の現状・課題

令和2年（2020）現在、大藪、^{かせばる}合戦原、^{やたて}矢立、大河内の4地区が輪番で三十三番の夜神楽を奉納している。^{ほうりこ}祝子は15名、子ども神楽も盛んで、子どもの舞が始まると小さな子どもたちも御神屋の周りに集まり「ヨーイサー、ヨーイサ」と囃す。

県内外での公演等にも積極的に参加し、神楽の保存継承に努めている。



地割



大神神楽



手力（下の重）